

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立長南小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 63人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・中央値は9問と、少し全国より低い。「書くこと」の領域に課題がある。

平均正答率（本校 64／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
<設問番号2一（1）> ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える（57.1/68.6） <設問番号3一> ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（41.3/59.4）	<設問番号3三ア・イ・ウ> ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。 ア（77.8/65.3） イ（66.7/58.9） ウ（77.8/67.2）	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	66.7	59.4	◇	7.3
国語の勉強は大切だと思いますか	88.9	93.4		4.5
国語の授業の内容はよく分かりますか	90.5	84.1	◇	6.4
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.1	91.7		0.4
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	82.6	77.4	◇	5.2
あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。	41.3	30.3	○	11.0

○漢字を書く問題について3問すべてで全国の正答率を上回ったことや無答率が低いことなど、これまでのとりくみによる成果が表れている。

○初見の文章から意図を読み取ることが苦手で、質問の意図が理解できていない誤答がある。

○読書が好きな児童が少ないことに関連して、物語の内容や会話文をイメージする力が弱いと感じられる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・中央値が11問と全国と同等。また4領域、バランスよく正答している。
平均正答率（本校 64／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問	
<設問番号2(3)> ○示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。 (17.5/21.4) <設問番号4(1)> ○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。 (38.1/48.8)	<設問番号2(1)> ○百分率で表された割合を分数で表すことができる。 (92.1/71.1) <設問番号3(3)> ○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。 (76.2/66.8)	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	68.5	62.7	◇	5.8
算数の勉強は大切だと思いますか。	93.7	94.3		0.6
算数の授業の内容はよく分かりますか。	87.3	81.2	◇	6.1
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。	92.0	93.3		1.3
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	76.2	69.3	◇	6.9
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	88.8	80.4	◇	8.4
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	74.6	76.9		2.3
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	90.5	85.8		4.7

- 無答率の低さやアンケートから、あきらめずにいろいろな方法を考えようと、とりくんでいることがわかる。
- 問題文が長ければ長いほど正答率が下がっていることから、文章を読む力が弱く、言葉（用語）を失わない。
- 資料を活用することが苦手。割合や比の単位につまずきがある。
- 定型に数値を置き換える説明文は書けるが、一から自力での作成は難しい。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて下位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 56／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問	
<p><設問番号1(2)> ○自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。 (49.2/67.7)</p> <p><設問番号2(3)> ○自分で発想した予想と、実験結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。 (47.6/62.9)</p>	<p><設問番号2(4)> ○自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 (20.6/39.4)</p> <p><設問番号3(1)> ○日光は直進することを理解している。 (12.7/27.8)</p> <p><設問番号3(3)> ○自分で発想した実験方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。 (55.6/69.0)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか。	63.5	79.8	○	16.3
理科の勉強は大切だと思いますか。	82.5	86.5		4.0
理科の授業の内容はよく分かりますか。	84.2	88.5		4.3
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	69.9	68.0		1.9
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	76.2	77.3		1.1
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。	22.2	26.7		4.5
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	74.6	78.1		3.5
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が分かったのかを振り返って考えていますか。	85.7	84.9		0.8
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	66.6	72.3	◇	5.7

○「粒子」「エネルギー」領域に課題がある。

○とくに「思考・判断・表現」の項目が全国に比べると低い。

○情報を基に自分の考えをもち記述すること、実験結果を基にまとめを検討し、考えをもつことが苦手。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自分自身について】	<p>相談したり、頼ったりできる先生がいる。</p> <p>学校に行くのは楽しいと思う児童の割合が全国を上回っている。</p>	<p>(14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 <79.4/68.1></p> <p>(16) 学校に行くのは楽しいと思いますか。 <88.9/85.4></p>
【家庭生活の様子】	<p>遅刻する児童もあり、起床時間や朝食を食べているかで学習に向かう意欲にも影響している。</p> <p>ゲームやスマホの使用時間が増えている。また、スマホを持っていない児童の割合が全国に比べて低いので、9割の児童がスマホを持っている状況である。</p>	<p>(1) 朝食を毎日食べていますか <88.9/94.3></p> <p>(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。 <81.0/90.3></p> <p>(5) 普段、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。(1時間以上) <76.2/75.7></p> <p>(6) 普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。(1時間以上) <74.5/50.6></p> <p>持っていない <11.1/20.6></p>
【家庭学習の様子】	<p>家庭学習の時間が年々減っている。全国に比べても数値がかなり低い。スマホやゲームの影響と関係している。</p> <p>コロナ禍の関係でなかった行事も徐々に増えてきたが、昨年度までの影響もある。</p>	<p>(20) 家で自分で計画を立てて勉強していますか。(学校の授業の予習や復習を含みます。) <61.9/71.3></p> <p>(21) 学校の授業時間以外に勉強をしますか。(1時間以上) <49.2/59.6></p> <p>(22) 学校が休みの日に、1日当たりどれくらい勉強しますか。(1時間以上) <37.5/56.5></p> <p>(29) 住んでいる地域の行事に参加していますか。 <53.9/52.5></p>

<p>【学校での学習の様子について】</p>	<p>相談や頼ることができる先生がいるという結果からもわかるように、学級集団づくりで信頼ベースを大切にしている。</p> <p>アンケートでは自力解決しようとしていると考えている児童の率が高くなっているが、実態が伴っていない。</p> <p>自分の意見を持ったり、伝えたりする姿にも個人差がある。グループやペアでの活動では参加できる児童が多い。</p> <p>教科への興味関心と理解度について実態と意識に差がある。</p>	<p>(19) 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。</p> <table border="0"> <tr><td>先生に聞く</td><td><65. 1/35. 6></td></tr> <tr><td>友達に聞く</td><td><81. 0/61. 5></td></tr> <tr><td>家族に聞く</td><td><87. 3/80. 4></td></tr> <tr><td>自分で調べる</td><td><77. 8/68. 3></td></tr> </table> <p>(39) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 <82. 6/77. 4></p> <p>(47) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。 <84. 1/73. 7></p> <p>(48) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。 <85. 7/80. 0></p> <p>国語・算数・理科の勉強は好きですか。 授業の内容はよくわかりますか。</p> <table border="0"> <tr><td>国語</td><td>好き</td><td><66. 7/59. 4></td></tr> <tr><td></td><td>理解</td><td><90. 5/84. 1></td></tr> <tr><td>算数</td><td>好き</td><td><68. 5/62. 7></td></tr> <tr><td></td><td>理解</td><td><87. 3/81. 2></td></tr> <tr><td>理科</td><td>好き</td><td><63. 5/79. 8></td></tr> <tr><td></td><td>理解</td><td><84. 2/88. 5></td></tr> </table>	先生に聞く	<65. 1/35. 6>	友達に聞く	<81. 0/61. 5>	家族に聞く	<87. 3/80. 4>	自分で調べる	<77. 8/68. 3>	国語	好き	<66. 7/59. 4>		理解	<90. 5/84. 1>	算数	好き	<68. 5/62. 7>		理解	<87. 3/81. 2>	理科	好き	<63. 5/79. 8>		理解	<84. 2/88. 5>
先生に聞く	<65. 1/35. 6>																											
友達に聞く	<81. 0/61. 5>																											
家族に聞く	<87. 3/80. 4>																											
自分で調べる	<77. 8/68. 3>																											
国語	好き	<66. 7/59. 4>																										
	理解	<90. 5/84. 1>																										
算数	好き	<68. 5/62. 7>																										
	理解	<87. 3/81. 2>																										
理科	好き	<63. 5/79. 8>																										
	理解	<84. 2/88. 5>																										

本校の取組

◎これまでの取組

【学習面】

- (1) 少人数習熟度別指導
算数と国語を中心に、1つの学級を複数の少人数グループに分け、そのグループごとに教員が指導し、よりきめ細かな指導、発表や質問がしやすい環境をめざしている。
- (2) 長南タイム（朝学習）
1時間目の授業が始まるまでの10分間を活用し、読書や漢字にとりくんでいる。
- (3) サポートタイム（放課後学習）
金曜日の放課後、家庭と連携を取りながら、学習に課題があった子どもたちと学級担任が、個々の課題を克服するためにじっくり時間をかけて課題にとりくんでいる。
- (4) スキルアップルーム（学期末学習）
4・5・6年生の希望者を対象とし、子どもたち自らが進んで自学自習する態度を身につけることができるように実施している。
- (5) 算数サポーター（月、火、木、金曜日）
算数の授業に入り込み、子ども一人ひとりによりきめ細やかな支援を行っている。
- (6) 自主学習の推進
児童の主体的に学ぶ態度を育てるため、自主学習ノート（やる気ノート）にとりくんでいる。
- (7) ICT活用授業の推進
ICTを使用した授業を積極的にとりいれている。（研究授業実施）

【生徒指導面】

- (1) いじめアンケート、生活アンケートを実施
- (2) 学期の初めにセカンドステップを実施
- (3) 全委員会の児童（5・6年生）によるあいさつ運動を実施

◎これからのとりくみ

【学習面】

主な課題から必要であると考えた力について

- (1) 文章等（長文・問題・発問等）を読みとる力（国語）
長い文章から必要な情報を読みとる活動を充実させる。短い文章を読みとるワークを積み重ねる。文章の要約をする課題や音読の時間を充実させる。電子図書館と chromebook を利用し、読書や読み聞かせの時間を充実させる。
- (2) 考えや根拠を説明（記述）する力（算数）
資料を活用しながら、考えや根拠を説明（記述）する活動を充実させる。定型文やヒントカードを使いながら自力解決できる活動を取り入れる。他の教科でもグラフや資料を活用する。普通の授業から記述問題にとりくむ。児童の書いたものを評価し、返す。chromebook を活用し、調べ学習にとりくむ。「質問の技」を活用する。
- (3) 教科への興味関心を持ち、生活で活用できる力（理科）
導入で疑問を感じさせ、興味関心がもてるような体験型のねらいを設定をする。実験や観察をしたあと、自分の言葉でまとめる時間を持ち、交流活動により考えを深める。学んだことがどう生活とつながっているのかふりかえる。

継続して行っていくとりくみ

- ①少人数習熟度別指導 算数専科指導
- ②長南タイム（朝学習）
基礎基本の定着を意識したとりくみ
- ③サポートタイム（放課後学習）
- ④スキルアップルーム
- ⑤算数サポーター
- ⑥ノートの活用や工夫
自学の楽しさやノートの工夫の便利さ等を感じさせるために継続する。
やる気ノート博覧会を月1回行い、頑張ったノートを掲示する。

【家庭学習面】

- ・スマホの保有率の高さ、家庭学習時間の低下やとりくみ方の課題などから、家庭でも継続学習が行われるよう家庭での学習の仕方（質や量）について、改善や定着を図る。
- ・スマホや chromebook を活用した学習課題を出すなどして、ゲームや SNS 利用以外で活用できることを経験させる。
- ・自主学習を自分で計画してとりくむ。
- ・スマホの使い方について高学年だけでなく、低学年から行い、デジタルシティズンシップ教育を行っていく。
- ・家庭への啓発を続ける。

【生徒指導面】

- ① いじめアンケート・生活アンケート
- ② セカンドステップ
- ③ 全委員会の児童（5・6年生）によるあいさつ運動
これらの継続により、自尊感情を育む。